

# 令和4年度鹿嶋市総合教育会議 議事録

## 1 日 時

令和5年3月15日（水） 13時30分～14時20分

## 2 会 場

鹿嶋市役所 3階会議室301

## 3 出席者

鹿嶋市長 田口 伸一

鹿嶋市教育委員会教育長 川村 等

同 教育長職務代理者 信樂 哲

同 委員 原 キミ

同 委員 大槻 啓子

同 委員 大崎 千帆

同 委員 岡田 淳

## 【オブザーバー】

鹿嶋市副市長 栗林 裕

政策企画部長 池田 茂男

教育委員会事務局部長 大須賀 規幸

## 【事務局】

政策企画部次長 大沢 英樹

政策企画部次長 鈴木 欽章

政策企画部政策秘書課長 飯塚 和宏

政策企画部政策秘書課長補佐 茂垣 諭

政策企画部政策秘書課係長 大川 和人

政策企画部政策秘書課主事 井坂 健人

政策企画部政策秘書課主事 吉田 優作

教育委員会事務局次長 君和田 浩幸

教育委員会事務局総務就学課長 久保 美由紀

教育委員会事務局教育指導課副参事 高楠 香代子

#### 4 議 事

○開会（司会：鈴木政策企画部次長）

○あいさつ（田口市長）

- ・市長になってから時間が取れていなかったが、今後、教育大綱を見直していききたいので、様々な立場からアドバイスをいただきたい。

○議事

- ・事務局より資料に基づき説明。
- ・市長作成資料に基づき市長より意図説明。

大槻委員)

- ・文科省は2030年を見越してGIGAスクール構想を進めているが、これからはその先を見据えて、子どもたちの未来を考えながら教育を進めることが必要。
- ・AIが進化しているという話は聞いていたが、実際に見て驚いた。つくばの宇宙飛行士もプレゼン力や表現力が選考基準になってきていることから、表現力が求められてきている。そういった部分を考えていきたい。

大崎委員)

- ・AI生成のスピードがすごい。技術の進化スピードも速い。今の職業も将来的には多くがAIに入れ替わる可能性を感じており、新たな職業についていくことも考えられる。このスピードについていくには学校も変わる必要があるし、子どもの能力を伸ばすためには、格差もなくしていかなければならない。
- ・苦手なことを克服していく教育より得意なことを伸ばしていく教育も良いのかなと思った。

岡田委員)

- ・技術の発展は恐ろしいように進んでいる。20～30年後の社会も分からない。これから日本が勝ち残っていくためにどのような人材を育てていくかが重要。
- ・AIが進むことで、道徳的な部分がより重要になってくる。技術だけが進んでいくと人間社会が崩れてしまうように感じた。小学校や中学校の義務教育では、そういった人間的な部分を育てていく議論も必要になってくると感じた。
- ・道徳，人として支え合うことが社会に必要。そこを失わないように作り上げることが重要。

原委員)

- ・自分自身、先月の教育委員会議で、産業革命 ICT 革命に次ぐものは ChatGPT 革命だと話していた。本日、市長から同じ思いであることを伺い、心強く思った。

- ・日本教育の課題は、少子高齢化なので、少ない子どもをしっかりと社会人に育てていかなければならない。好きなことを見つけ、AIを使いこなすような人材を育てていくべきである。
- ・技術立国日本として誇りに思っていたが、昨今の日本の情勢をみると衰退を感じ、不安を覚えている。産業イノベーションを起こす子どもたちを育てる必要性を感じている。鹿嶋を日本の教育のトップランナーにしていきたいという言葉に感銘を受けた。
- ・AIにできないことをしっかりと身につける。

信楽委員)

- ・市長の教育に対する熱意を感じた。国語力を高めるということに視線を向けたことをうれしく思っている。私自身も日本語の良さを小学校や中学校の頭が柔らかい時に学ばせることが重要だと感じていた。
- ・童謡を歌わなくなったが、日本語の良さや情景を想像する力が身につく。AIのような最先端を追いかけるのも大事だが、日本人として継承していかないといけない部分もある。
- ・唱歌を歌わなくなってきた。語彙力、人間力を作ることにつながる。時代に逆行すると思いますが、この曲だけは鹿嶋市の教育では歌う。語彙力の向上につながる。含みを理解する能力がない。包含されている意味を習得するすべがない。人間性を身につける教育を、日本人としての心、ことばの含みを身につける教育を。

市長)

結論を急ぐ必要はないと考えている。  
方向性を決めるために引き続き議論していきたい。

司会)

閉会とする。